

今月の聖句

『愛することのない者は神を知りません。
神は愛だからです。』

ヨハネの手紙一 第4章8節

- ◎ 7月の予定
- 1日(金) 期末試験(中)
- 2日(土) 学校説明会①
- 4日(月) 臨時理事会・評議員会
- 8日(金) デイ・キャンプ(小1・2年)
- 15日(金) 教務委員会
- 19日(火) 時間割変更期間 ～ 21日
- 20日(水) 給食終了
- 21日(木) 終業礼拝、教職員協議会
- 22日(金) デイ・キャンプ(小5・6年)
- 24日(日) 中郡陸上選手権(城山)
- 25日(月) デイ・キャンプ(中)
- 31日(日) 西地区陸上記録会(平塚)
- ◎ 8月の予定
- 8日(月) 一斉休業 ～ 15日
- 18日(木) 私立中陸上競技大会(三ツ沢)
- 23日(火) 教務委員会、漢字検定
- 26日(金) 始業礼拝、教職員協議会



時間割変更期間 ～ 9月3日

海の学習

海での学習を再開しました！
並んで歩き、海へ向かいます。
岩場や海岸で活動しています。



調理実習

調理実習を再開しました。
感染症対策より、調理室と教室両方
を使って実習しています。



◎今月の行事から

デイキャンプ

◎小1・2年生
大磯海水浴場に出かけ、砂遊びやビーチフラッグ、貝拾いをしました。帰校後はアイスクリーム作りをし、盛りだくさんな内容となりました。

◎小5・6年生

シーグラスや海の生き物を探しに照ヶ崎海岸に向かいます。昼食は感染症対策を講じ、火起こし体験、野外炊事を行います。

◎中学生

ネイチャー協会の方を講師としてお招きし、学園内の自然を活かしたネイチャーゲームを予定しています。学園の豊かな自然と親しみ、身近にある自然の新たな気づきやより深く学ぶ、良い時間となります。

夏休み中の活動(中)

中学生は補習や部活動など充実した夏休みが過ごせるように計画をしています。毎年行う漢字検定では多くの子ども達がチャレンジし、学力だけでなく自信も大きくつける、良い機会となっています。

また、部活動では陸上競技部が大会に参加をします。3年生は3年間の集大成として練習の成果を発揮します。



新しい時代を新校長に

ご支援有難うございました

学園長 小川 正夫

聖ステパノ学園に関わる皆さんは、私の家族の一人ひとりのように思っていて、学園に入学した一年生が三十歳を超え立派な社会人に成長した様で嬉しさでいっぱいです。

単身赴任の私でしたので、健康管理をして頂いたホームドクターからも学校大好き人間、仕事大好き人間、でも過信しない様に注意といわれましたが、今迄元気でいられたのは、聖ステパノ学園にいたからだと思えます。

二十五年もの間、皆様から言葉では言い尽くせない程の大きなご支援を戴きました。

殊に二十一世紀の始まりを期に、聖ステパノ学園総合発展計画を目指して、子ども達や教職員の学習、生活環境の整備充実と地域社会への積極的な発信をして参りましたが、本来、皆様方のお蔭で学園内の構築物、自然豊かな環境の中での外構整備工事等、全て目標を達成できまして、これほど大きな歓びはありません。お世話になった多くの方々の面影が浮かび、直接に心からの感謝の言葉をお伝えしたい気持ちがいっぱいに溢れます。自然環境も校舎も快適になり、何よりも、子ども達が活き活きと笑顔で走り回り、保護者の方々も安心した笑顔が増した様子です。教職員も小さな働きの中にも大きな愛を込めて生き生きと忍耐強く働いております。

仕事には資金が必要で財務状況を心配される方もおられましたので、ご報告いたします。教室の新築整備、外構の整備、リフォーム等で必要とした資金は次の通りになります。佐藤雅美事務長がまとめてくれました。

| 内容 | 金額 |
|--------------------|-------------|
| 海に見えるホール | 167,979,000 |
| 小学校教室棟 | 203,248,000 |
| 体育館棟 | 214,342,872 |
| 森の中の教室棟 | 57,483,542 |
| 理科室リフォーム | 4,645,740 |
| 中学校トイレ更衣室リフォーム | 16,610,000 |
| 新築、リフォーム合計金額 | 664,309,154 |
| 外構整備合計(校庭外壁・法面擁壁等) | 14,684,682 |
| 寄付金及び自己調達資金 | 321,285,544 |
| 私学共済事業団借入金 | 366,479,000 |
| 借入金残額 | 89,900,000 |

この数年間、年度末決算では翌年度繰越金が一億六千万円超が記録されており、借入金は長期均等返済計画になっておりますので特にご心配いただくことはありません。

振りかえってみて、聖ステパノ学園の働きの中に自分が居て、役に立って良かったと思えるので、これほど幸せなことはありません。共に働いてきた多くの教職員、数百人の方の結晶によって成し遂げることができたことは言うまでもありません。

ありがとうございます。繰り返し心より感謝申し上げます。

私事で恐縮ですが、今年五月初め理事会に提出させていただいた、七月三十一日今学期末をもって使命を終え、退職したい旨の願いが、七月四日開催された理事会、評議員会において受理承認されました。

聖ステパノ学園は新しい時代を迎えて歩みを進めてまいります。

八月一日をもって新校長に佐藤紀明副校長が就任することになりました。

佐藤紀明新校長、佐藤雅美事務長、共に有能な実力者であり、聖ステパノ学園の将来を担うに相応しい仲間ですのでご安心ください。これからも変わることなく温かいご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

小川校長の学園総合発展計画により、学園内の校舎、自然環境は明るく開放的になりました。常に児童・生徒・保護者・教職員のことを第一に考えてくださいました。キリスト教学校として、建学の精神を大切にしながら、時代やニーズに対応し、将来を見据えた教育を目指し、実践されてきた姿を引継いでいきます。

この二十五年間、聖ステパノ学園のためにご尽力いただき、本当にありがとうございます。小川校長の下で働くことができ本当に幸せでした。感謝です。

佐藤紀明

変化から気付くこと

小学校教頭 長谷川 誠子

今年梅雨明けがとても早く驚きましたが、学園では色とりどりの紫陽花がとてもきれいに咲いていました。青・紫・赤紫・ピンク・薄ピンク・白など、様々な色の花々。その中でも、真っ白な紫陽花のきれいな目を奪われました。白い紫陽花の花言葉は「寛容」です。眺めていると心が静まっていくように感じます。

この2年間はコロナ禍で校外学習を通常通りに行う事ができずに行きました。

しかし、今年度は嬉しいことに春の遠足から行うことができました。低学年、中学年、高学年と分かれ、自然の中をハイキングしたり、公園で遊んだり、名所を見学したりと感染症対策をとりながらですが楽しい時間を過ごすことができました。

また、5月の下旬、久しぶりに子ども達と大磯の海へ出かけることもできました。

当日は、大変天気が良く、青い海がきれいに広がり、とても爽やかな陽気で本当に気持ちの良い日でした。アオバトもたくさん岩場にやってきました。潮の状況もちょうど良く、磯遊びには絶好の環境でした。

久しぶりの磯遊びに、子ども達は大はしゃぎで、目を輝かせていました。網をもって魚をとる子、カニなどを探す子、潮だまりで水

に浸かって楽しむ子、それぞれが思う活動を自由に思いっきり楽しみました。

その様子は、自然の中でしか体験できない、体感できないものを子ども達が全身で感じているようでした。大磯は海水浴場の発祥の地とも言われています。海辺での活動は、やはり心にも体にも良い影響がありそうです。

6月上旬にも、続けて海に出かけシーグラス探しをしました。ご存知の方もおられると思いますが、シーグラスとは、ガラス片が海の中で波に揉まれながら小さな石のようになって流れ着いたもので様々な色があります。

赤、青、白、茶色等々。その中でも赤が一番見つけるのが難しいようで一万個に一個の割合だそうです。多くのシーグラスを見つけた子と、なかなか見つけられず苦戦していた子がいましたが、2回目の海での活動も潮風に吹かれながらのんびりとビーチコーミングを楽しみました。

楽しみつつも、シーグラスの素となるガラス類が海にあるということに、環境問題を感じさせられました。

少しずつ様々な活動が出来るようになってくると、以前行われていたことの意味や大切さを実感することが出来ます。

それは、私達の生活に大きな変化をもたらしたこの2年間があったからでしょう。辛く、大変な事もたくさんありましたが、この様な変化が、新しい捉え方や考え方に繋がっていききました。

先日、キリスト教学校教育同盟の東日本教職員協議会という小学校の研修会で「キリスト教学校の変えるべきこと、変えざるべきこと」という講演がありました。

キリスト教学校として変えざるべきことには、キリスト教教育、建学の精神、礼拝、伝統的な学校行事などが挙げられました。これらのことは、本校でも本当に大切に、守っていることであり、守っていかねければならないものであると強く感じました。

また、時代の変化で変わったこと、変化に応じて変えるべき事もいろいろあり、それらをこれからの学校生活に取り入れていくことの必要性も学びました。しかし、学校生活において物事を新しく変える時には、子ども達にとってより良いものが何であるかを一番に据えて考えることを忘れてはなりません。

コロナ禍の社会状況も少しずつ変化し、学校生活の様式も戻りつつあります。校外学習にも、もつと出られるようになるのではないかと期待もあります。新型コロナウイルスが一日も早く終息することを願うばかりです。

「生きていくということは、変化していくことだ」という言葉を以前耳にしました。

自分の周りにある様々な変化を私達は受け入れ向き合っていく中で、本当に大切なものに気付く、対応していく力を付けていきたいと思えます。



ちっちゃな幸せ

教諭 澤邊 嵩介

『ちっちゃな幸せにくきゅうグミ』というお菓子をご存じでしょうか？かわいらしい子猫のパッケージに、小さめの肉球の形のグミが入ったお菓子です。グミと猫が大好きな私にとって、ツボにはまった一品です。

私は、普段あまりお菓子を食べないので、ある時に友人にこのグミを紹介されてから、コンビニに寄った際に探すようになりました。しかし、取り扱っているお店が少ないようで、未だに探す日々です。

「ここにはあるかな？」と、今まで寄ることのなかったお菓子コーナーを覗くようになり、その際に昔の見たことのないお菓子や、定番のお菓子の新しい味などを発見することが出来ます。今まで自分では得ることがなかった気づきを得られることが、最近の小さな楽しみの一つになっています。

こうした、何気ない日常の中の気づきは、心の成長に不可欠だと考えています。

さて、皆さんはどういった時に「優しさ」というものを感じるでしょうか。お手伝いしてもらった時、慰めてもらった時、挨拶してもらった時……最初に思い出す場面は、十人十色だと思います。私は、何か「気持ち」を分けてもらった時に優しさを感じます。

先日、飼っていた愛猫が天に召されました。

「たま」という名前のメスの三毛猫で、十年近く共に生活していたのでさみしくなります。悲しみに暮れている最中、このことを聞きつけた友人が、『ちっちゃな幸せにくきゅうグミ』を教えてくださいました。落ち込んでいたのを察して、心配して気にかけてくれたという事に、優しさを感じて温かい気持ちになりました。

こうして「気持ち」を分けてもらえると、悲しい気持ちで覆われて見えなくなっていたもの、それこそ「ちっちゃな幸せ」に気づけるようになります。

聖ステパノ学園では、児童生徒一人ひとりの心を育む「心の教育」を大切にしています。大磯駅に向かうバスの中で、「優しい心を育む聖ステパノ学園」とアナウンスが流れます。

そのアナウンス通り、子ども達が生来持っている優しさを育めるよう日々関わっています。今、担任をしている小学校2年生の教室でも、優しさを感じながら生活しています。お休みしたお友達を心配していて、その子が登校したときに嬉しさを前面に表す子。自分の好きなことを笑顔一杯に教員に共有しようとする子。教員に叱られて、泣いている友達に寄り添って声掛けをする子。それぞれが、それぞれのでやり方で自分の気持ちを分け与えるように、周りに優しく接しています。こういった姿は、見習わなければいけないなど、思

いながら生活しています。このように、周りの友達に対して気持ちを

配るためには、「いつもと様子が違うな」といった気づきを持つことが必要不可欠です。

何気ない空や花の綺麗さに気づく……というだけではなく、周りの人々との関わりの中で、さりげなく気づかせてもらえていること、毎日挨拶してくれていること……聖ステパノ学園の中で、沢山の優しい心が育っていることを実感し、ちっちゃな幸せを感じています。

こうした気づきを子ども達に伝えるために、まず自分自身が子ども達のサインに気づけるようによく目と気持ちを向け、今まで分けてもらえた気持ちを子ども達にも分けていくことが大切だと思います。

最後に一つ、今年度、聖ステパノ学園では子ども達がICT機器を使えるよう鋭意準備中です。ICT機器には子ども達の学習の際に気づきを共有しやすい、手軽に多くの情報にアクセスしやすいなどの利点があります。

ICT機器という新しいアプローチの教育の流れの中でも、今まで大切にしてきた素朴な優しさへの気づきを忘れずに、「優しい心」を育む教育を自ら実践できるように、子ども達と関わり続けていこうと思います。

ちなみに『ちっちゃな幸せにくきゅうグミ』、犬パージョンのパッケージもあるようです。犬猫好きの皆さん、ぜひ探してみてください。



「イギリスで学んだこと」

教諭 露崎 志苑

留学中、イギリスでの生活も少しずつ慣れてきたある日のこと。現地での初めての授業を受け、期待と不安を胸にキャンパスに向かっていました。コーヒーを買って席に着くと、教室内で隣に座ってバリボリとリンゴに丸ごとかじりついているイギリス人学生が話しかけてきました。「この授業の先生、おもしろいらしいよ。」と。教室内でリンゴにかじりついているというカルチャーギャップに驚きを隠せませんでした。平静を装って「そうなんだ」と相槌をうちながら、話をしてっていると、話題の先生がにこやかな笑顔でやってきました。一通りの自己紹介とあいさつ、授業についての説明を終えると、テキストを取り出してこのように言いました。「The assignment for this week is to read this article, and criticise. That's all for today. See you.」（今週の課題はこの文章を読み、批判してください。以上です。では、また。）このように言ってそそくさとクラスを出て行ってしまいました。

「教科書を批判する？」すかさず隣にいるリンゴをバリボリしていた彼に目をあわせました。イギリス人の彼はあまり驚いた様子ではなく、不思議に思い、尋ねてみるとこのように言いました。「大学では criticise [批判す

る] するのは普通のことだよ。」

寮の部屋に戻り、さっそく課題に取り組んでみると、批判をすることは到底できないことだと気づき、本を閉じてしまいました。教科書を批判する。しかも、その道の専門家である研究者や学者が書いた文章を批判するなんて不可能だと思っていました。

半ば諦めていましたが、課題をやらずに授業に行くこともできないので数日後、もう一度じっくり、じっくりと課題の文を読みこんでみました。すると、不思議なことに少しずつ疑問に思うところがでてきました。さらに調べてみると、教科書の箇所に関する疑問点、疑わしいところ、違った見方ができるところ、断言はできないところ、あいまいにされているところなどが少しずつ浮き彫りになってきました。いまだにこの時の、驚き、衝撃、感動を覚えています。次の授業を受けてみると、まさに自分が指摘したポイントを先生もアカデミックな視点から批判していました。「教科書は常に正しい」といった固定観念をもって自分のものごとくつながる意義のある経験でもありました。**物事は必ず様々な方向からみることができる**ことを知りました。

さて、留学生活での一番の収穫は何かと聞かれたならば語学の習得ではなく、私はこの物事の見方に触れることができたことと答えると思います。「**物事を鵜呑みにせずに、疑ってみる。考えてみる。いろいろな視点で物事**

をみてる」ということです。留学時代、どの授業でもこういった **"critical thinking"**

(**批判的思考、複眼的思考**)を強調されました。このものの見方を知るやいなや、いろいろなものに対する見方が大きく変わったと同時に、自分自身の視野がいかに狭く偏っているのかということも思い知らされました。

この形は四角形だと思っても、本当にそうなのかと考えてみる。そして、違う角度で、例えば、横からみる。そうすると三角形だったとわかる。そしてさらに疑って、遠くからみると実は立体で、ピラミッドの形だったのだと気づくかもしれません。

このように「**自分の頭で、多面的に物事を見る**」ということを中学生、高校生の時に知っていればよかったなと思っています。インターネット、テレビ、雑誌、本と様々な情報で溢れている世の中、また、様々な価値観を持つ人たちに囲まれている社会の中で、このようなもの見方の姿勢を持つことは特に大切だと日々感じています。

最後に、大学時代の恩師が伝えてくれた言葉で文章を終えたいと思います。

『わからなくなってきたら、
わかってきたということ。』

当然と知っていることも、違う角度で見ると「わからなく」なってくる。この時に、本当の意味で「わかって」きたということなのかもしれません。日々、このような姿勢を忘れずにこれからも成長していきたいです。

「小学校」日頃の授業の様子と、3・4年デイキャンプの感想(日記)を掲載したい。

小1 図工と生活で、色水遊び

図工では、「まほうのジュース屋さん」になりきって、色水遊びをしました。使う絵の具の色は、赤と青と黄と白だけ。「メロンソーダを作るには、どうしたらいいかな?」「青色と黄色を混ぜてみる?」と子どもたち同士で考えながら、色と色を混ぜ合わせて、色々な種類のジュースを作ることができました。



翌日の生活科では、植物を使った色水づくりをしました。校内を散策しながら、花や草を摘み、子どもたちの手のひらサイズのすり鉢を使って、植物からどんな色水が作られるのか観察しました。ツユクサからは、きれいな青色の色水が作られました。ツユクサの青い花を絞った汁は、友禅染の下絵を描くインクとしても活用されてきたそうです。



3・4年デイキャンプ

デイキャンプ当日の日記から

ぼくは今日、学校のデイキャンプで、大磯海水浴場に行ってビーチサッカーをしたり、ビーチフラッグをしたり、砂山きょうそうをしました。そしてその後に、学校に帰って、お弁当やおやつを食べた後に、石アートをしました。全部とても、ものすごく楽しかったです。またぜったいにやりたいです。

(小4 S R)

6月24日金曜日、4年生の教室で、3・4年の4はんで石アートの石に色を塗りました。とても楽しかったです。

(小3 U A)

3回目の勝負で、砂山を作って1位で、とってもうれしかったです。

石アートでは、好きな物を作れてうれしかったです。

(小3 T Y)



5年 俳句

日常生活を十七音に込めて

雨ふれば 森のにおいが おどりだす

(小5 I T)

雨上がり あじさいたちが おにごっこ

(小5 I Y)

シジュウカラ ピーチチチチと 森の中

(小5 S Z)

雨上がり 森はどんどん いいにおい

(小5 T K)

風の音 森の葉っぱの ゆれる音

(小5 T A)

木ザーザー 葉っぱのあいだ 光のかがやき

(小5 F K)

「中学校」日々の授業の様子を生徒たちの感想・日記からご紹介します。

「中一 家庭科調理実習「ハンバーグ」」
「コロナ禍を考慮し、教室と家庭科室に分かれて久しぶりに本格的な調理実習を行いました。」

今日は家庭科で待ちに待った調理実習がありました。今日のために先週から家で作り方のプリントを見返したり、道具の扱い方を練習したりしました。普段全く料理なんてしないけれど、この練習をしておいたおかげで自信をもってやることができました。パン粉を入れ忘れた失敗はしましたが、十分おいしくできました。今度、家でも作ってみたいと思います。

(中一 M H)



家庭科の調理実習でハンバーグを作りました。家で作った時の反省を活かして、たまねぎを細かく切る、フライパンにハンバーグを入れる前にフライパンを熱する、説明を作る前に最後までしっかりと目を通すなどの練習でミスした所に気をつけてやりました。

友達に教えながらやるのは想像以上に大変でした。

家でもう一度おさらいし、しっかりとテストにそなえようと思いました。

「中二 体育「空手」」

静寂な空気の中、生徒達の真剣な表情や形に取り組む姿、掛け声が体育館から響いていました。

(中二 K R)

今日は、6時間目の体育で空手をやりました。今回は今までの復習をしました。難しいところや度忘れしてしまったところもありましたが、なんとかやりとげることができました。来週で今年度最後になります。がんばっていきましょうと思います。

(中二 S S)



今日は、体育で空手をしました。技を覚えるのが難しかったです。先生に色々と教わりました。大変でしたが、頑張つて覚えられました。最後にはもちろんテストがあるので、それまで頑張りたいと思います。

「中三 聖書「命はなぜ大切？」」

杉原千畝の功績を学び、命に対してどう向き合つか、何故大切かを改めて考えました。

(中三 K T)

命とは、とてもはかないものです。ですが、一人の勇気ある行動で6000人：いや、もっと多くの人を救ったのです。今の私は、ウクライナ以外の世界はこのような虐殺は無い

と思っています。ですが、虐殺以外で苦しんでいる人たちを忘れず、私たちも出来る限りをつくして全うしたいです。なので命とは、人を助けるために全うする目的をもって実行に移すという行動であるから、命は大切だと思います。

(中三 T T)

私は、当然ながら命は大切なものだと思っている。その理由として大きくあるのは、命は有限だから、この地球上にいる人の命には全てその人の物語とその親の物語がある。例えばどんな人だろうとそれを侵害すべきではないと思う。白人、黒人、アジア人でもそれは共通である。それを無視して他の人種に差別的な言動を行う人は、決して許されるべきではないし、日本人でも大陸の人々に嫌悪を示す人はいるので、少しでもそれが改善されれば良いと思う。それに、先の大戦から77年経った今日も、当時迫害を受けたユダヤ人の悪い噂がSNSなどの当時なかったものを通して流れているので、その流れを自分たちの世代で止められることを望む。この件以外にも世界中には命が迫害されていることがごまんとあるのに、それがすぐ完全にはなくとも改善されること願っている。





「うまくいなくても、いいんですよ。雇う側だって失敗していいし、働く側だって失敗していい。大事なのは、目標に向かってうまくことだと思ってる」と、叶えたい夢への熱意を語るのは、夏目浩次さん。愛知県豊橋市に本店を構え、全国に二七店舗五三拠点を持つチョコレート専門店「M.の部屋」の経営者だ。従業員五五〇人の約六割は、障害のある人だと言う。

「人は生きていく中で何か必ず属性を持つ。男性、女性、老いている、若い、障害がある、ない等。それによって生き方の選択肢が急に狭められ、生きづらさ、暮らし難さ、社会的な理不尽を受けることはナンセンスだと僕は思う。凸凹があったら組み合わせでいく、そういうセンスある社会を作りたい」

その挑戦は、二〇〇四年に障害のあるスタッフを三人雇い、パン屋を始めたことに遡る。きっかけは、バリアフリー建築を学んでいた学生時代、障害者のあまりの低賃金に驚いたことだと言う。一か月働いても一万円に満たない給与を「仕方ない」という現実には、「仕方なくないよ」と言うだけでなく、実際に現場を創ろうと奮起したそうだ。障害の有無に関わらず、当時の最低賃金の保障を掲げて始めた事業だが、現実には厳しく、約束の賃金を



支払う一方で、借入は膨らむばかりだった。「パンは、手間の割に利益が薄く、火傷なども多い。しかし、計算のできなかつたスタッフがレジを打てるようになり、焦がしてばかりのスタッフが見事なパンを焼き上げ、やり遂げていく姿に希望が見えました。そうしてもがき続けて十年、巡り合ったのがチョコレートでした。難しく扱えないと思っていたチョコレートが、実は、シンプルで応用の効く食材であることをトップシヨコラテイエの野口和男さんに教わりました」

「スーパージョコラテイエは、百も二百もの事が一人でできるが、一つなら誰もが成れる。欲張らずに一人一人個ずつプロになればいい」という言葉に触発され、事業をチョコレートにシフトする。永遠に続くという意味を持つ「久遠」、誰もが働く場所が永く続くよう願って名付けた「久遠チョコレート」の誕生だ。世界各国のカカオに日本の食材を合わせた「ZONテリーヌは一五〇種に及ぶが、作業工程は細分化、単純化されている。カカオを溶かして練る作業には、こだわりと集中力、食材のカットやラッピングには、手先の器用さ几帳面さ、それぞれの特性を活かす仕組み作りがある。夏目さんの夢を追った十七年間の現実は、東海テレビ制作のドキュメンタリー番組『チョコレートな人々』として、二〇二一年日本民間放送連盟賞・テレビグランプリを受賞した。色々な人が働き、自己実現をし、挑戦し、夢を持てる舞台を作る「夢」は続く。

STEPHEN'S NEWS

○中学校校舎のトイレ改修
中学校校舎のトイレが改修され、安全で快適なトイレが使えるようになりました。

○中学校旧校舎の外壁塗り替え
中学校の旧校舎の外壁が塗り替えられました。



○あじさいがきれいに咲いています
理事の井口一世様にご寄贈いただきましたあじさいが、きれいに花を咲かせて、石垣の上を彩ってくれています。ご寄贈賜りまして、心より御礼申し上げます。



【編集後記】

熱中症の危険に脅かされるほどの暑い日々が続く中でも、子どもたちはこまめな水分補給を心がけ、暑さに負けずに元気に過ごしています。早いもので、一学期も締めくくりに時期となりました。気持ちをまた引き締めて、万全な体調のまま夏休みを迎えてほしいです。(中略)

代表者 学園長 小川 正夫
発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298
FAX 0463-61-9739
<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二二年七月二十一日(木)発行 第267号